

米インフレ圧力依然強くFRBは3月利上げ実施へ



シニア・ストラテジスト 石黒英之

ポイント① 米CPIは鈍化持続もインフレ圧力残る

14日に米労働省が発表した2月の米CPIの上昇率は、前年同月比6.0%と1月の同6.4%から縮小し8か月連続で鈍化しました（右上図）。ただ、米コアCPIの前月比が0.5%上昇と市場予想（0.4%上昇）を上回るなど、特に米サービスインフレの根強さを示す内容でした。

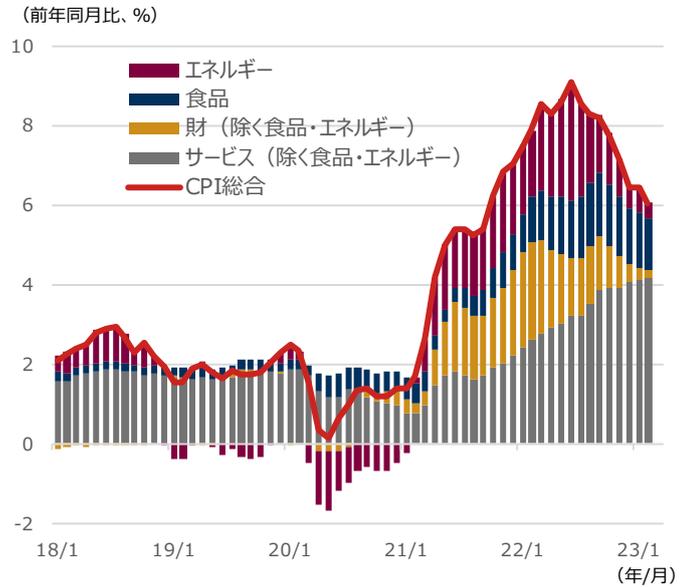
足元で米金融システムへの不安が高まっていたこともあり、市場では来週のFOMC（米連邦公開市場委員会）で利上げが見送られる可能性が意識されていました。しかし今回の米CPIの結果を受け、14日の米FF（フェデラル・ファンド）金利先物市場では同FOMCでの利上げ確率が77%と前日の57%から上昇しました。

ポイント② FRBは予定通り3月利上げ実施へ

市場の一部では来週のFOMCでFRB（米連邦準備制度理事会）が利上げ見送りや利下げを行なうとの見方もあります。ただ、拙速な金融政策の転換は米金融機関が抱える問題が根深いのではとの見方を投資家に与える可能性もあり、FRBは予定通り利上げを実施するとみられます。

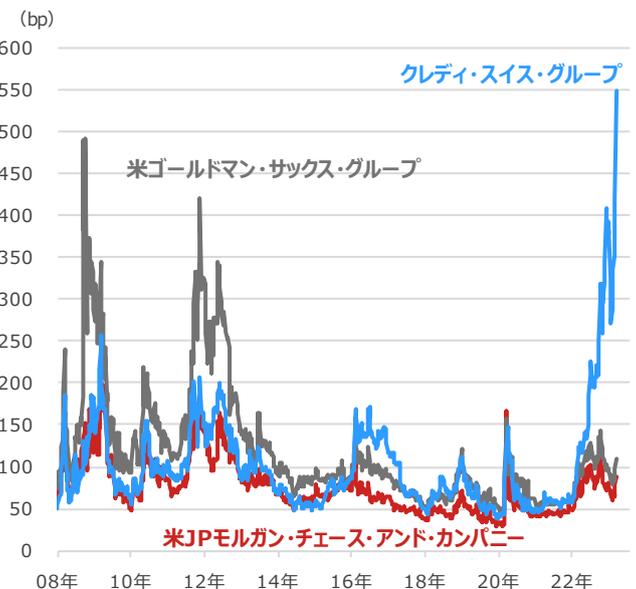
企業の債務不履行リスクを織り込んで取引されるCDS市場では、欧州金融機関の一部でデフォルトリスクが急速に高まっています。ただ、米金融大手2社のCDS保証料率は過去の金融危機時ほど上昇しておらず、米当局の安全措置が市場の不安を和らげているとみられます（右下図）。複雑な金融商品が火種となったリーマン・ショック時と異なり、今回は保有する米国債などの金利上昇が金融不安の背景とみられ、当局の管理が可能といえます。FRBは次回FOMCでも利上げ継続姿勢を維持しそうです。

米CPI（消費者物価指数）とその内訳



期間：2018年1月～2023年2月、月次
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

米欧金融大手のCDS（クレジット・デフォルト・スワップ）保証料率（5年物）



期間：2008年1月4日～2023年3月14日、週次
・bpはベースポイント、1bp=0.01%
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

個別銘柄の記載は、特定銘柄の売買などの推奨、また価格の上昇や下落を示唆するものではありません。

*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。